※本件に関する情報解禁は、説明会の開始時刻（15 時）としていただきますよう、お願いいたします。

2026 年 11 月 25 日
株式会社海遊館　広報チーム
〒552-0022　大阪市港区海岸通 1-1-10
TEL:06-6576-5529　FAX:06-6576-5551
（担当：田井、澤）

メディア関係者各位

2026 年 12 月 7 日（月）より、9 年ぶりにラッコを展示します



海遊館で展示するラッコ（2026 年 10 月 28 日撮影）

海遊館（大阪市港区）は、2026 年 12 月 7 日（月）より、「アリューシャン列島」水槽にて、ラッコ 4 頭（予定）を展示いたします。

海遊館は「リング・オブ・ファイア（環太平洋火山帯）、リング・オブ・ライフ（環太平洋生命帯）」を展示テーマに、太平洋とその周辺の環境を再現し、そこで暮らす多種多様な生きものの生態と環境保全の重要性を発信しています。今回展示するのは、米国アラスカ州にある「アラスカ・シーライフ・センター」（以下、ASLC）が、米国魚類野生生物局（以下、USFWS）の許可を得て、2025 年 5 月から 10 月にかけて、アラスカ州の海岸にて保護したラッコたちです。保護当時は生後 2 週間から 4 か月程度の赤ちゃんで、母親とはぐれて遭難し海岸で衰弱しているところを、ASLC が保護・治療しました。

ASLC は、USFWS により野生復帰不可と判断された保護ラッコを、米国農務省（以下、USDA）が飼育可能と認定した米国やヨーロッパなどの水族館に託す活動を行っています。

そこで海遊館では、開業当初の 1990 年から 2017 年までの 27 年間にも及ぶラッコの飼育技術と施設を有していることから、ASLC と協議を重ねて施設改修を行い、日本で初めて USDA の飼育基準を満たした施設に認定されました。その後、飼育員が ASLC へと赴き、飼育や健康管理に関する最新の知見などを学び、展示に向けて準備を進めておりました。そして USFWS の輸出許可を得て、この度ラッコを展示する運びとなりました。なお、海遊館でのラッコの展示は 2017 年 10 月 10 日以来、約 9 年ぶりとなります。

海遊館では、再びラッコの愛らしい姿とユニークな生態をご覧いただけること、さらに国際的なラッコの保護に貢献できたことをとても喜ばしく考えており、本展示を通じ、生きものや自然環境に興味を持っていただく機会を提供したいと考えています。

別紙にて、ラッコの詳細及びメディア関係者向け撮影会の取材案内などをお知らせします。

【 本件に関するメディア関係各社からの問い合わせ先 】
海遊館　広報チーム　06-6576-5529（平日 9:00～17:30）

※本資料の提供先：大阪市政記者クラブ、及び弊社プレスリリース提供希望のメディア関係各社

別紙

【海遊館でのラッコの展示について】

海遊館の展示テーマ「リング・オブ・ファイア（環太平洋火山帯）」の一地域である「アリューシャン列島」は、北太平洋に連なる長さ 2,000 kmにも及ぶ火山列島です。平均気温が 5℃、活火山と険しい山々が海岸線まで迫る厳しい環境ですが、海中には巨大なケルプ（コンブ科の海藻）が繁茂し、海棲哺乳類や魚類、海鳥、無脊椎動物など多くの生きものが暮らす豊かな海が広がります。ラッコは同地域の生態系を代表する生きもので、海遊館では「アリューシャン列島」水槽にて、1990 年 7 月 20 日の開業から 2017 年 10 月 10 日までの 27 年間で、海遊館で繁殖した 4 頭を含む合計 13 頭を飼育展示しました。

【今回展示するラッコについて】

愛称と由来	性別	保護日	保護時点での推定年齢
ウーナ（開けた海にいるもの）	メス	2025 年 5 月 6 日	生後約 2 か月
ニピ（音）	オス	2025 年 6 月 23 日	生後約 2 週目
チャリィ（再び または もっと）	メス	2025 年 10 月 20 日	生後約 1 か月
イマック（海）	オス	2025 年 10 月 30 日	生後約 4 か月

※愛称は、ASLC がアラスカ先住民の言語を元に考案し、海遊館と協議して決定。



ウーナ



ニピ



チャリィ



イマック

【保護ラッコについて】

ラッコは、子が独り立ちするまで母親がつきっきりで子育てする生きものです。そのため、保護された赤ちゃんラッコは、治療・回復しても自分でエサをとることができず、野生への復帰がほぼ不可能です。USFWS により野生復帰不可と判断された赤ちゃんラッコを、水族館や動物園が飼育するには、USFWS の許可書が必要であり、そこには繁殖が明確に禁止されています※。そのため、ASLC は USFWS の許可を得て、搬出する前にオス個体の去勢処置を行っています。

※AZA（米国動物園水族館協会）「SEA OTTER CARE MANUAL」より

【ラッコ展示までの経緯】

2022 年 10 月	海遊館が ASLC との協議開始
2023 年 3 月	ASLC スタッフが海遊館に来館、USDA 申請に向けて施設確認
11 月	USDA の飼育基準を満たすための改修工事を開始
2024 年 3 月	海遊館が ASLC の野生動物保護プログラムに正式にエントリー
2025 年 3 月	海遊館が USDA の飼育基準を満たす施設に日本で初めて認定される
5 月～10 月	ASLC がアラスカの海岸にてラッコ 4 頭を保護
2026 年 2 月	ASLC が USFWS へ申請した海遊館への輸出許可が承認される
2 月 27 日	海遊館が経済産業省へ申請した輸入許可が承認される
4 月 20 日	ASLC より、ラッコ 4 頭を海遊館へ搬出、チャーター機で輸送
	現地時間 11:10(日本時間 4/21 05:10)にアンカレッジ国際空港を出発
4 月 21 日	関西国際空港に到着（12:15）
	海遊館バックヤードの予備水槽に搬入（16:00）
5 月 11 日	ラッコ展示準備のため「アリューシャン列島」水槽を閉鎖
	～水槽メンテナンス及びラッコの馴致～
12 月 7 日	「アリューシャン列島」水槽にてラッコ 4 頭を飼育展示開始（予定）

【ASLC について（ASLC 公式 WEB サイトより引用・抜粋）】

アラスカ州スワードにて、スワード海洋科学振興協会が非営利で運営する、海洋哺乳類救助・リハビリテーション施設。水族館と海洋研究及び教育活動、野生生物保護活動が組み合わさったアラスカ州で唯一の施設で、海洋生物を間近で観察しながら、フィールドと研究室の両方の研究活動について学ぶことができる。



【ASLC からのコメント（原文を和訳）】

ASLC は、2025 年の夏から秋にかけて保護された 4 頭のラッコたちの永住先が、大阪・海遊館に決定したことを、喜びと共にお伝え致します。ウーナ、ニピ、チャリィ、イマックはアラスカでの体験を胸に、これからは日本で海洋保全の重要性を世界中の人々に伝え、啓発する役割を担ってくれるでしょう。

海遊館の献身的なチームと協力関係を築けたことは、私たちにとって大変光栄なことでした。海遊館がラッコたちの新しい住処と決まったその瞬間から、海遊館スタッフの皆さんは、ラッコのケアに必要なあらゆる要素を学ぼうと、並々ならぬ熱意を示してくださいました。何度もアラスカへ足を運び、ASLC の飼育・獣医師チームと共に活動することで、ラッコのリハビリテーションと長期飼育に関する専門知識を深めてこられたのです。

ラッコたちは今後、専門の飼育チームが支える最先端の環境へと移り住みます。当センターの野生動物保護プログラムにおいて、野生復帰が困難と判断された個体は、生涯にわたり最高水準のケアを提供できる施設に移送されるよう、関係当局の決定に基づき受け入れ先が選定されま

す。ASLC は、この 4 頭が新しい環境で健やかに成長することを確信しています。
遠く離れた日本で、ラッコを含む海洋生態系保全の重要性と来館者の関心向上に、どのような貢献をしてくれるのか、今から楽しみにしています。

【ラッコについて】

和　　名：ラッコ
※ラッコは生息域によってアラスカラッコ、カリフォルニアラッコ、チシマラッコの 3 亜種に分類される。今回海遊館で展示するのはアラスカラッコ。

英　　名：Sea otter

学　　名：*Enhydra lutris*

分　　類：イタチ科

分　　布：北太平洋沿岸（北海道東部～米国カリフォルニアにかけての沿岸）に生息する。

生　　態：海棲哺乳類の中では最も小型で、成長するとオスで体長 120～140cm、体重 25～40kg、メスで体長 100～130cm、体重 20～30kg になる。またオスは 4～6 歳、メスは 2～5 歳で成獣になると推定されている。
海中でエサを捕らえるだけでなく、摂餌・毛づくろい・睡眠・交尾・出産・子育てなど生活のほとんどを海上で行うが、寒さから身を守る分厚い皮下脂肪層がなく、代わりに世界一緻密とも言われる毛の間に空気の断熱層を作ることで、寒さから身を守っている。また、代謝を活発にし体温を維持するために、1 日に体重の 20～25%量ものカニなどの甲殻類、ウニ、貝類、魚などを食べる。石を使ってお腹の上で貝を割るなど、数少ない「道具を使うことが知られている哺乳類」の一つである。
海藻を食べるウニをラッコが捕食することで、磯焼けを防ぎ、巨大なケルプ（コンブ科の海藻）などが育ち、多様な生物が暮らす豊かなケルプの森の生態系が保たれることから、ケルプの森の生態系に与える影響が大きい重要な種（キーストーン種）となっている。
18 世紀～19 世紀にかけて毛皮目的に乱獲され、絶滅寸前まで個体数が減ったが、1911 年に国際保護条約が制定されて以降、個体数は回復してきている。一方で、原油流出による海洋汚染や、新たな感染症の出現、サメやシャチによる捕食など新たな問題に直面している。
IUCN（国際自然保護連合）をはじめ、国内でも環境省や北海道が絶滅危惧種に指定している。

（以　上）

【 取材のご案内】

海遊館「ラッコ展示」メディア関係者向け撮影会のご案内

【開催日】2026 年 12 月 7 日（月）

1 部　8:30～9:20　（対象：テレビ番組）

2 部　9:20～10:10（対象：テレビ番組以外の各メディア）

※お申し込み期日：2026 年 12 月 4 日（金）17:00

9 年ぶりにラッコを展示するにあたり、展示開始初日の営業開始前に、メディア関係者を対象とした撮影会を開催いたします。本撮影会には、事前募集した小学生以上の招待客(15 名程度/回)も参加します。



ラッコを展示する「アリューシャン列島」水槽

＜撮影について＞

・撮影スペースに限りがありますので、撮影会を、**8:30～9:20 と 9:20～10:10** の 2 部制とさせていただきます。ご理解、ご了承のほどお願いいたします。

・展示水槽のガラスは、幅約 5m×高さ約 2mの 2 面です。撮影位置については、各社様でご協力いただけますよう、お願いいたします。

・当日は 10:30 開館です。開館後の撮影はお断りいたします。

1 部	2 部	内　容
8:20～8:30	9:10～9:20	取材受付開始（受付場所は、お電話にてお伝えいたします）
8:30～8:40	9:20～9:30	メディアブリーフィング
8:40～8:50	9:30～9:40	7 階「アリューシャン列島」水槽へ移動
8:50～9:00	9:40～9:50	招待客合流
9:00～9:20	9:50～10:10	招待客及びラッコ担当飼育員へのインタビュー等
9:20	10:10	終了

＜撮影会でのお願い＞

・招待客の合流後は、ガラス前への三脚等の設置をご遠慮ください。

・照明の使用はご遠慮ください。

・以下については対応いたしかねます。ご了承ください。

撮影会での生中継、撮影会終了後（営業時間中）の撮影、水槽内からの撮影、「アリューシャン列島」水槽以外の撮影、など。

取材のご希望、お問い合わせは、

2026 年 12 月 4 日（金）17:00 までにお電話ください。

海遊館広報チーム　06-6576-5529

2026 年 11 月 25
海遊館広報チーム

12 月 8 日以降のラッコの取材・撮影について

ラッコ展示開始以降、多くのお客様がご来館され、「アリューシャン列島」水槽前が相当な混雑となることが想像されます。

お客様の安全・安心な観覧環境作りを最優先とするため、ラッコの取材・撮影については、当面の間、下記のとおりとさせていただきます。

ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

ラッコの取材・撮影時間　8:30～営業開始時刻まで

※期　間:2026 年 12 月 8 日から当面の間

※12 月 6 日以前の取材撮影はお断りいたします

※営業開始時刻は、日によって異なります

【 取材・撮影に関するメディア関係各社からの問い合わせ先 】

海遊館　広報チーム　06-6576-5529（平日 9:00～17:30）

（以　上）